

受付No.

## 2026年度 アートによる地域振興助成（スタートアップ）

公益財団法人 福武財団 理事長 福武英明殿

募集要項に則り、本応募用紙に記載した通り、標記助成に応募いたします。

## &lt;団体プロフィール&gt;

団体名	奥能登曼荼羅再建部				
住所	〒927-1214 石川県珠洲市飯田町13部27番地				
団体区分	任意団体	スタッフ数	14名		
代表者氏名(カナ)	ナカジマ タイガ	役職	部長	年代	30代前半
代表者氏名	中島 大河				
団体URL1	https://www.okunoto-mandala.net				
団体URL2	https://www.instagram.com/okunoto_mandala_saiken/				

## &lt;申請者・実務担当者&gt; ※団体所在地と同じ場合は「同上」\*申請者には、助成に関する諸手続きの連絡担当者の名前を記入してください。

申請者氏名(カナ)	ナカジマ ハルコ	役職	副長	年代	20代後半
申請者氏名	中島 陽子				
連絡先 e-mail	okunoto.mandala@gmail.com	電話番号	080-4022-2901		
住所(書類の送付先)	同上				

## &lt;プロジェクトリーダーの略歴&gt; ※アートプロジェクト等の運営経験や当時の役割を記載してください。

氏名(カナ)	ナカジマ タイガ	役職/肩書	部長	年代	30代前半
氏名	中島 大河				
年(西暦) 月	略歴(活動内容)				
2016年8月	金沢美術工芸大学アートプロジェクトチーム [スズプロ] 学生代表として活動を行う				
2017年4月	同コーディネーターとして奥能登国際芸術祭2017に参加				
2018年4月	石川県珠洲市へ移住、珠洲焼作家に師事する				
2020年4月	珠洲焼作家として独立				
2021年4月	金沢21世紀美術館 自治区「かないわ楽座」地域コーディネーター兼珠洲焼作家として参加				
2024年9月	金沢大学能登学舎マイスタープログラム「地域とアート」中島ゼミ				
2025年9月	奥能登曼荼羅再建部 部長就任				

## &lt;福武財団の助成実績&gt;

助成を受けて活動した年度

## &lt;外部協力者の状況&gt;

氏名	年代	組織名	所在地(市町村まで)	協力内容(できるだけ具体的に)
西本耕喜	40代前半	金沢美術工芸大学 アートプロジェクトチーム [スズプロ]	石川県金沢市	奥能登曼荼羅の共同修復、再建場所の共同整備等
金田直之	60代後半	サポートスズ	石川県珠洲市	作品管理及び公開の補助、ワークショップ開催補助、ボランティア・地元住民への活動周知

### <活動内容・事業計画について>

表現手法	作品展示
活動テーマ	被災地（の地域振興）
事業名	奥能登曼茶羅再建プロジェクト
2026年度の活動期間	2026/04/01 ~ 2027/03/31
活動に従事するスタッフ数	14名

#### 1. 団体の活動の概要

<p>奥能登曼茶羅再建部は、奥能登国際芸術祭2017に出展した作品《奥能登曼茶羅》を制作した当時のメンバー(スズプロ)によって、能登半島地震で作品が被災したことを契機に設立された団体である。2027年度中に珠洲市での公開を目標に準備を進めており、現在はスズプロの現役学生と協働して《奥能登曼茶羅》の修復作業を行っている。メンバーは珠洲市を含め全国各地から活動に関わる。再建後は作品の図を更新するためのワークショップや現地でのリサーチ活動を行う。このような人と土地を繋げられるような活動を展開することによって関係人口の創出を狙いつつ、珠洲を捉え続ける作品となることを目指す。</p>
--

#### 2. これまでの活動の沿革

申請事業の活動年数	1~2年	
年（西暦）	月	活動内容
2023年	5月	5月5日の地震（震度6強）によって展示会場の旧八木邸が被災。移設へ向け作品撤去を行い、検討を進める。
2023年	12月	奥能登曼茶羅の壁板部分のみ撤去を行い、会場近くの空き家へ移動、保管した。
2024年	1月	令和6年能登半島地震により旧八木邸は倒壊、奥能登曼茶羅を保管していた空き家も倒壊した。
2024年	4月	奥能登曼茶羅の救出に成功。以降、珠洲市内の施設に仮保管。
2024年	4月	GALLERY【ソシ SOSI:】(金沢市)にて奥能登曼茶羅壁板の一部を展示。
2025年	3月	金沢フォーラスにて、能登半島地震復興応援企画「奥能登国際芸術祭展」で展示。
2025年	8月	金沢美術工芸大学にてスズプロと連携し、奥能登曼茶羅の再建へ向け本格的に修復を始める。
2025年	9月	曼茶羅再建部設立
2025年	9月	再建場所の仮決定

#### 3. 活動エリアについて

活動エリア	石川県 珠洲市
活動エリアの特色 (歴史、文化、地域性、魅力など)	<p>珠洲市は石川県能登半島の先端に位置し、三方を海に囲まれた自然豊かな地域である。能登の里山里海は世界農業遺産に登録され、揚浜式製塩法による製塩や炭焼き、珪藻土など土地由来の資源を活かした暮らしが受け継がれてきた。また、キリコ祭りやヨバシ、あえのことなど独自の文化が現在も各地で継承され、地域社会の結束を支えている。近年は「奥能登国際芸術祭」に象徴されるように、アートによって土地の記憶や暮らしの価値を再発見し、多種多様な交流を生み出す動きも広がっている。2024年1月に起きた能登半島地震の被害は大きく、地域の行事や多くの地場産業は再開する目処が立っておらず、現在も厳しい状況が続いている。</p>
活動エリアの課題 (まず初めに、活動エリアにおける課題を簡潔にご記載ください。続けて、その課題の背景や詳細について、できるだけ具体的に記入ください。)	<p>珠洲市では、長年続く過疎化と少子高齢化に加え、能登半島地震によるコミュニティと文化の喪失が深刻な課題となっている。震災後の公費解体や転出の影響で人口は1万人以下に減少し、約半数の世帯が住居を失っている状況である。多くの住民は仮設住宅で暮らしており、定住の見通しが立たないことから人口の流出が加速している。また、生活基盤となる施設の多くが倒壊し、地域内で人々が集い活動する場が失われたことにより、コミュニティ形成が困難になっている。さらに、車やバスに頼る交通環境の中で一部の道路が通行止めや片側通行の状態にあり、アクセス性の低下も地域の孤立を深める要因となっている。</p>
貴団体の地域に対するミッション (活動の目的)	<p>奥能登曼茶羅再建部は、震災で倒壊した《奥能登曼茶羅》を珠洲市内に再建し継続的に公開することで、土地と人を繋ぐ拠点となることを目的とする。 震災により加速した人口流出や文化の喪失といった地域課題に対し、作品を制作する過程と公開活動により解決の糸口を探る。 主な活動としてフィールドワークを重視した調査をもとに《奥能登曼茶羅》の図を更新し、再建場所である建物の中で公開を行い、奥能登の記録や記憶を共有できる場を提供する。このような奥能登曼茶羅再建にまつわる制作・公開活動を地域住民や外部の人々、学生を巻き込み行うことで、コミュニティの拡張や関係人口の増加を狙い、地域の活性化に繋げる。</p>



7. 2026年度のプロジェクト評価の観点や指標をどのように設定しますか。

定性（状態的な目標）、定量（数値的目標）をお書きください。

奥能登曼荼羅再建部のプロジェクト評価は、「作品の再建・公開体制の整備」「地域との関わりの深化」「継続的な運営基盤の確立」という3つの観点から行う。定性的には、(1)2026年度内に2027年度中の作品再建および公開を実現できる計画と予算体制が確立していることを評価の基準とする。

定量的には、(1)2026年度活動報告展示で延べ来場者数1,000人以上、(2)フィールドワークを通して奥能登の文化、歴史、記憶のエピソードを300以上集める、(3)SNSフォロワー数を10倍（130→1,300人）に増加させること、(4)クラウドファンディングや助成金等で総額300万円以上を確保し、運営が安定していることを目標とする。これらにより、プロジェクトが単なる作品展示にとどまらず、地域に開かれた創造的な交流拠点として機能しているかを定量・定性の両側面から検証する。

8. 2026年度の翌年以降の、地域に持続的に関わる中期計画と将来ビジョンをお書きください。

※一般申請者は、その計画・ビジョンの展開がこれまでの活動の積み重なりどのように紐づいているかと、その展開に事業や運営体制をどのように反映していくかについてもお書きください。

2027年度内に《奥能登曼荼羅》の再建を完了させ、珠洲市内での一般公開を実現することを翌年以降の最初の目標とする。作品公開後は、展示の場を単なる鑑賞空間としてではなく、地域の人々や外部の来訪者が集い、交流し、共に創造を行う拠点として運営していく。初年度は週3日程度のオープンを想定し、管理運営の体制を整備しながら、来訪者や地域住民、学生など多様な人々に関わるコミュニティを形成する。展示空間は作品を中心とした「溜まり場」として、アート、学術、生活が交差する地域の新たな文化的存在となることを目指す。

金沢美術工芸大学との連携を継続し、数十年にわたりサーチと加筆を繰り返すことで、《奥能登曼荼羅》は常に「今」の奥能登を記録し続ける生きたアーカイブとして成長していく。学生や若手研究者が奥能登を訪れ、地域住民と協働しながら学びや創作を行う機会を増やすことで、芸術・社会・環境といった複合的なテーマに触れる学際的な教育の場としての発展も見込む。運営面では、助成金に加えて入場料、グッズ販売、会費、クラウドファンディングなどを活用し、持続可能な体制を構築する。また、現地でのワークショップや関東圏で展示を開催するなど、地域の記憶や変化を共有する場としての役割を担うとともに他地域に向けての周知活動も行う。これらの活動は、これまでの再建プロセスで培ったフィールドワークや協働の経験を基盤として展開し、継続的なりサーチ・創作・交流を循環させる仕組みへと発展させる。

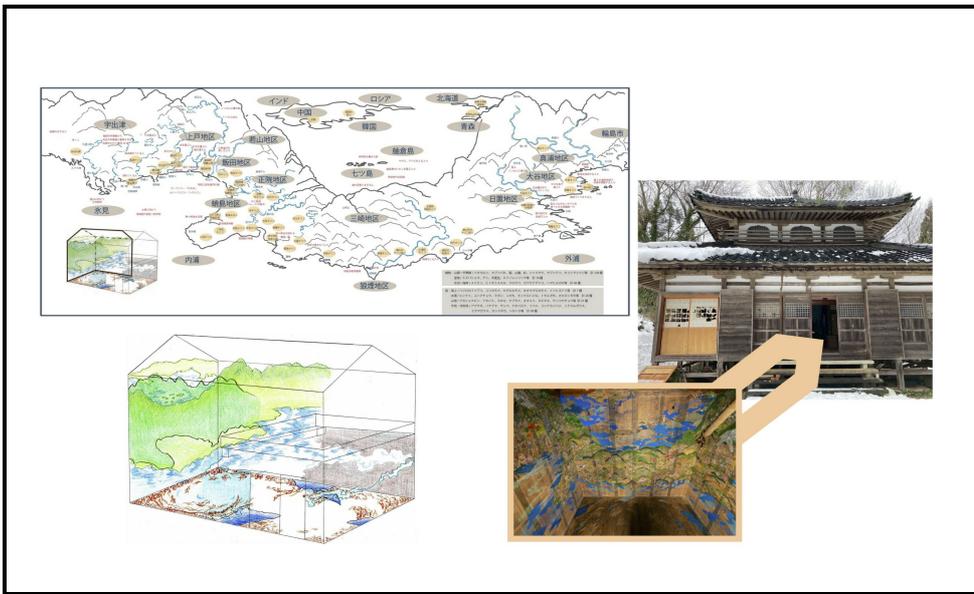
9. 2026年度以降、複数年の助成を希望していますか？

はい

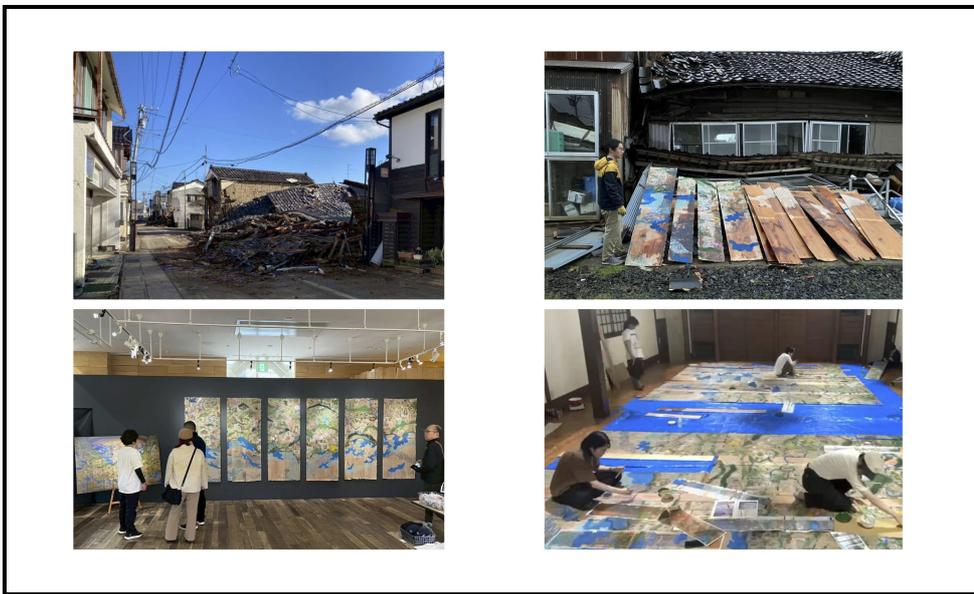
<活動の様子>



奥能登国際芸術祭2017の時の奥能登曼荼羅の完成図と展示の様子



奥能登曼荼羅に描かれている地域一覧と再建予定場所、再建イメージ



能登半島地震以降の活動の様子

